

明治大学大学院  
国際日本学研究科  
(博士前期／後期課程)

文化・思想研究領域



# 文化・思想領域とは

広い視野の中に自分の関心を位置づけて研究をおこなうことを目指すところにこの領域の特徴があります。時代の区分、言語や宗教の違いを超え、文字文化のみならず視覚文化や身体文化にも注目しつつ、自分にとって本当に面白いもの、大切なものを探して行くのは、骨の折れることではありますが、楽しいことです。

日本のほか、東アジア（とくに中国）・ヨーロッパ（とくにドイツ・フランス）・アフリカに詳しい教員がいて、宗教思想・政治思想・哲学・文学・絵画・彫刻・映画・演劇・武道・茶道、また庶民の文化等を対象として多岐にわたる研究がおこなわれています。






# 専任教員

※教員詳細は写真をクリック

教員（専門分野）			博士前期	博士後期
准教授	鵜戸 聡 （フランス語圏アラブ＝ ベルベル文学研究）		○	
准教授	小谷 瑛輔 （日本近現代文学）		○	○
教授	張 競 （比較文学、比較文化、東ア ジア文化交流史、文化史）		○ * 2024年度 募集せず	
教授	長尾 進 （身体教育学－武道論）		○	

# 専任教員

※教員詳細は写真をクリック

教員（専門分野）		博士前期	博士後期
教授	溝辺 泰雄 （近現代アフリカ研究、 日本アフリカ交渉史）	 ○ * 2024年度 募集せず	
教授	美濃部 仁 （哲学、特に宗教学）	 ○	○
教授	渡 浩一 （日本文化史、庶民信仰 文化史、日本文化論）	 ○ * 2024年度 募集せず	○ * 2024年度 募集せず



# 過年度の修士論文テーマ (博士前期課程)

- ▶ ロールズ『正義論』における反照的均衡と道徳的直観の意義
- ▶ ロック・ミュージックにおける畸形性
- ▶ エマニュエル・レヴィナスにおける感受性と意味作用  
—「発話と沈黙」から『全体性と無限』へ—
- ▶ 「空・転」する知  
—西谷啓治『宗教とは何か』をめぐって—
- ▶ 滝沢克己と久松真一
- ▶ ニヒリズムは超克できるのか  
—西谷啓治のニーチェ理解—
- ▶ <オーストリア・ミュージカル>、その形成と確立  
—『フロイディアーナ』から『エリーザベト』へ—



# 過年度の修士論文テーマ (博士前期課程)

- ▶ 東京都の家族形態の変化と墓の変容
  - 都立多摩霊園を中心に
- ▶ 笹川臨風『支那小説戯曲小史』の依拠する典籍について
  - 第一篇と第二篇のテキスト分析を中心に–
- ▶ 日本における上巳の歴史と変遷
  - 「曲水の宴」から「桃花の節」、「雛祭り」へ–
- ▶ 武術・武術における「小太刀」に関する研究
  - 日本剣道形への「小太刀の形」採用の背景を探る–
- ▶ 坂口安吾「桜の森の満開の下」論
  - 「文学のふるさと」のテーマの戦後–
- ▶ インダストリアルデザインと自己イメージ
  - ドン・ノーマンの「三つのレベル」を手がかりに–

# 過年度の博士論文テーマ (博士後期課程)

- ▶ Wiener Musicals and their Developments:  
Glocalization History of Musicals between  
Vienna and Japan

＜ヴィーナー・ミュージカル＞の諸展開  
ーヴィーンと日本におけるミュージカルの  
グローカリゼーション史ー

